

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ16 子ども・子育てのしくみづくり
-----------	---------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
2	4行目に「満足度も増加しました」とあるが、1998年との比較では低い水準にあり、「満足度も増加に転じました」などとしたほうがよい。	白書の総合分析欄の記述を修正しました。
3	14行目で待機児童について、「279人の大幅な増加」とあるが、「約6割の大幅な増加」としたほうがイメージしやすい。	2009年の実績が6月初旬に把握されますので確定次第、白書を修正します。
4	17行目に「新たに就労する子育て中の人が増加したことによって保育ニーズが高まっている」とあるが、この前に「女性の社会進出が今後も増えることが予想されることに加え、経済的な差し迫った理由で」としてはどうか。待機児童は、経済危機による一時的な問題ではなく、女性の社会進出という長期的な流れとして対応すべきである。	ご意見の趣旨を踏まえ、白書の総合分析欄の記述を修正しました。
新たな政策課題		
5	中小企業の子育て支援が進まない理由に、生計維持のため、働く側も時短等を期待していないことがあるのではないかと。中小企業の労働時間の柔軟化には、世帯の収入を増やす必要があり、そのためには保育所の整備が不可欠である。事業者の子育て支援の取り組みを求める前に、まず保育所の量・質両面の充実を図るべきである。	点検の中で対応を検討します。
6	就学児童の放課後支援については、単に居場所をつくれればよいというのではなく、放課後に子どもの体験格差・教育格差が生まれているということなど、子どもの間の格差をどう縮小するのか、事業・サービスの質、費用対効果など、より詳細な検討が期待される。	点検の中で対応を検討します。
目標設定の課題		
7	子どもの貧困率、児童虐待の件数などを目標として設定したほうが、県民から見て子育てしやすい社会かどうかを図る指標としてわかりやすい。	点検の中で対応を検討します。
8	「めざすすがた」の実現に向けて目標設定するのであれば、目標（保育所待機児童数）には合理性が認められるが、目標（認証事業者の数）には、現実問題との間に乖離がある。事業者は神奈川県内の事業者に限られることから、県外で就労している県民の子育て支援にはならない。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ16 子ども・子育てのしくみづくり
-----------	---------------------

	二次評価意見	県の対応
9	<p>「事業継続や雇用維持が最優先課題」となっている中小事業者に、認証事業者として登録をはたらきかけていくことは、今後もかなり困難である。</p> <p>煩雑な認証手続は中小事業者にとって負担である上、認証事業者として認定されても、助成金もないのであれば、中小事業者にとって認証される利点がない。</p> <p>仮に、認証されても、実際に制度を利用する就労者がいるかどうかは別問題である。中小企業においては職員の代替性が低く、職場環境が整わない可能性が高い。</p>	<p>点検の中で対応を検討します。</p>
その他		
10	<p>目標 を促進していくためには、中小企業への働きかけも重要だが、まず、県内に事業所がある、大企業に向けて、認証事業者になってもらうように、働きかけていくべきである。大企業であれば、認証基準を満たす社内規定が既にある場合が多く、認証事業者になれば、企業のイメージアップにもつながる。また、社員の数が多ければ多いほど、県民への影響も大きい。認定事業者の数ではなく、認定事業者の社員数や制度の利用者数（又は利用率）で推移を測るのも、一案である。</p>	<p>事業実施の中で対応を検討します。</p>
11	<p>子どもがいる専業主婦（未就労の保護者）に対しても、公園の整備、室内で子どもを遊ばせられる場所の確保、図書館での読み聞かせの会、就業前の子どもの会など、子どもと一緒に遊べる安全な場所の提供や一人で抱え込まない育児環境づくりに、引き続き力を入れていただきたい。</p>	<p>事業実施の中で対応を検討します。</p>
12	<p>県ができることは、まず子どもの預け先の確保である。その上で県民自身が、幅広く選択できるようにすべきである。</p>	<p>事業実施の中で対応を検討します。</p>

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ17 支援を必要とする子ども・家庭への総合的な対応
-----------	-----------------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
2	虐待の未然防止、早期発見を進めるとしているが、具体的に何をしているのかが明確に書かれていない。例えば、子育ての中で、親の様々な悩みを解決する仕組みなど、虐待を増やさないという県の取り組みについて触れてほしい。もしこれからであれば、「今後の課題と対応方向」にその点について書き込んでほしい。	白書に、児童相談所の専門職員による親への支援や家族再統合・親子関係の再構築など、県の取り組みについての記述を加えました。
3	発達障害については書かれているが、このプロジェクトに障害のある子どもへの対応について書くべきではないか。障害者についてがPJ10で触れているが、大人と子どもでは問題も異なり、「支援を必要とする子ども」からイメージされるのはまず障害のある子どものように思う。	点検の中で対応を検討します。
新たな政策課題		
4	<u>障害のある子どもが放課後に行く場所がないという問題や親もそのために家にこもりきりになるという問題なども対応すべきである。</u> <u>また、兄弟に障害がある、親が病気がちであるなどの理由で親に面倒を見てもらえない子どもや、子ども自身が家族のケアに時間を取られて勉強が遅れるなど、目に見えない負担を背負っている子どもへの対応についても検討する必要がある。</u>	事業実施の中で対応を検討します。
5	児童虐待をする親への精神的また経済的支援や、乳幼児の虐待死を防ぐことも、視野に入れる必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ18 青少年が心豊かに育ち、自立できる社会づくり
-----------	----------------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	<u>総合分析は概ね妥当である。</u>	
2	4段落目の記載のうち、「街頭補導活動を通じた積極的な声かけを行った結果」は、件数減少との因果関係が証明できないことから、削除したほうがよい。最後の「一定の効果を上げていると考えられます」程度の表現にとどめるべき。	白書の記載を、ご意見の趣旨を踏まえて修正します。
新たな政策課題		
3	青少年の非行や引きこもりなどの原因には、青少年が楽しむ場所が地域にないという根本的な原因がある。非行や引きこもりを未然に防ぐため、青少年にも意見を聞きながら、青少年の放課後や休日のための場所や事業について、他の自治体の取組みなども参考に検討すべきである。 また、経済的に恵まれない家庭の子どもにも、自然体験、芸術体験、スポーツなどが楽しめるような配慮をする必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
4	<u>青少年の非行や引きこもりを未然に防ぐため、様々な体験ができる居場所づくりについて、市民の自発的な取組みを促進する必要がある。</u>	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ19 不登校、いじめ、暴力行為への総合的な対応
-----------	---------------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
2	「県の不登校児童・生徒数及び暴力行為の発生件数は前年に引き続き全国最多」とあるが、子どもの人口に対する割合で見た場合に全国順位がどの程度なのか分析する必要がある。	白書の分析欄に、カッコ書きで子どもの人口に対する割合でも全国1位の記述を加えました。
3	「総合的に勘案して、概ね効果を上げることができました」とあるが、目標に対する支援割合が上昇したことと、不登校児童・生徒数の減少の成果が出ることは別なので、総合分析では「上昇させることができました。」とする必要がある。	白書の表現を、上昇させることができたなどに修正しました。
4	目標に対する支援割合を上昇させることに併せて、不登校、いじめ、暴力の件数自体を減少させるための取組みも記載する必要がある。	白書の分析欄に、2008年度の不登校児童・生徒数や暴力行為の発生件数は依然として全国的に高い水準にあるため、引き続き件数自体の減少に向けて取り組んでいきますの記述を加えました。
新たな政策課題		
5	不登校を未然に防ぐよう、学校と家庭との連携を強化する必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
6	全国のなかでも神奈川の状況が悪いことについて、その原因究明に向けた調査研究が不可欠である。 原因を放置したままで、単に支援を増やしていくやり方は、財政的にも非効率であり、子ども自身にとっても不幸である。 学校に問題があるのか、家庭や地域の問題なのかなど、原因を予測して根本的な対策を講じる必要がある。	点検の中で対応を検討します。
7	PJ18とPJ19の内容は、県民部、教育委員会という担当部署の違いで分かれているが、内容的には一体化して論じるべきではないかを感じる。子どもにとって、非行と、不登校・いじめ・暴力の間に大きな差異はなく、いずれも子どもの不適応、問題行動として、その原因も共通性があるように感じる。	点検の中で対応を検討します。

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ19 不登校、いじめ、暴力行為への総合的な対応
-----------	---------------------------

	二次評価意見	県の対応
8	<u>不登校やいじめ、暴力行為の発生件数が依然として多い状況にある中、対策にさらに力を入れていく必要がある。</u>	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ20 子どもたちが未来を拓く力を伸ばす教育の推進
-----------	----------------------------

二次評価意見		県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
2	学習状況調査については、地域や経済状況による教育格差についても分析し、検討する必要がある。	点検の中で対応を検討します。
新たな政策課題		
3	学校と家庭との連携を強化する必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
4	子どもの学力については、学校教育より塾に左右される傾向がある。子どもが保護者の所得水準にかかわらず充実した教育が送れるよう、プライベートな教育のあり方も含めて、教育環境について検討する必要がある。	点検の中で対応を検討します。
5	これからの社会を担う一員としての資質、能力を養うキャリア教育をさらに推進する必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
目標設定の課題		

神奈川県総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	PJ21 かながわの学校力を高める教育環境づくり
-----------	--------------------------

	二次評価意見	県の対応
総合分析の妥当性等		
1	総合分析は概ね妥当である。	
2	「十分に効果を上げることができました」とあるが、高校生の満足度が前年比で上がっているわけではない（私立高校と比較して高いというわけでもない）ため、前年比の部分も含めて分析し、記載する必要がある。	白書の目標達成状況の分析欄を、生徒の満足度が高い水準を維持することができたと考えられま ずに修正しました。
新たな政策課題		
3	教員の補充や、補助教員に関して、民間企業経験者を採用するなど、柔軟な対応をしていく必要がある。	事業実施の中で対応を検討します。
4	高校無償化を受け、公立高校と私立高校の関係や、少子化による生徒数減少への対応など、私立高校を含めた今後の高校教育のあり方について検討していく必要がある。	点検の中で対応を検討します。
目標設定の課題		
その他		
5	プロジェクトの概要の冒頭「意欲と指導力のあ る教職員が実践的な指導技術を磨きながら、毎 日、子どもたちと真剣に向きあっており」とい う部分は、自画自賛のように感じられるため、この 部分はカットして「学校が、子どもだけでなく、 家庭や地域の人々からも信頼されるよう取り組 んでいきます。」としてはどうか。	白書を、学校が子ども だけでなく、家庭や地 域の人々からも信頼さ れるよう高い指導力と 意欲をもつ教職員の 確保・育成に取 り組んでいきます 修正します。